



7月号

神戸市立こうべ小学校

7月、朝顔の花

1年生の子供たちは、登校するとすぐに朝顔に水を遣りにいきます。毎朝のことなので、もう自然に体が動くようです。今年の1年生は、一生懸命水やりをしていました。小雨が降っていても水遣りは、欠かしません。人間がシャワーをするように支柱の上から朝顔に水遣りをしているので、「土にそっとやさしくやってね。」と声をかけることもありました。

先日、雨がたくさん降った次の朝、どのクラスも紫や赤の可愛い花が咲きました。例年より早く咲いたので、私はうれしくなって、1年生の各教室に「うれしいお知らせです。朝顔が咲いたよ！これから、夏休みにかけてたくさん咲くから数えたら楽しいよ！」と話しにきました。

朝顔の花の命は一日。それは散るのではなく、しぼむように、丸まるように小さくなっていきます。まるで、後に繋ぐかのように。まさにその通りで、朝顔はすでに、次の日の次の花を咲かせるための準備を終えています。私たちは、その朝咲いた可愛い花を見ながら、明日に咲く花を確かめ、数を数え楽しみにしています。朝顔がいつも新鮮で清々しいのは、いつも明日への期待が、見えるからなのかも知れません。

これはまさに1年生の子供たちと同じです。4月を思い起こすと、子供たちは随分成長しました。そして、明日は今日よりもまた出来るが増えるのだと、期待がいっぱい膨らみます。

早いもので1学期も残すところ1か月となりました。1年生に代表されるように、どの学年もそれぞれ出来るようになったこと、学んだことがたくさんありました。1学期をしっかりと振り返り、伸びたことを褒めてやり、一方でこれからの課題を明らかにし、楽しい夏休みを迎えたいと思います。今月6日から9日までの個別懇談会を通じて、ご家庭との連携をさらに強いものにしていきたいと考えています。また、体育館には子供たちの力作の図工作品を展示します。どうぞご鑑賞下さい。

しあわせ

高田 敏子

歩きはじめてばかりの坊やは
歩くことで しあわせ

歌を覚えてたての子どもは
うたうことで しあわせ

ミシンを習いたての娘は
ミシンをまわすだけでしあわせ

そんな身近なしあわせを
忘れがちなおとなたち
でも こころの傷を
なおしてくれるのは
これら 小さな
小さな しあわせ